

沙界怪談実記

著 鉄砲堂

現代語訳 天羽孔明

『怪譚実記 序』(沙界怪談実記 序文)

そもそも人の嗜好はさまざまで、花や動物を愛でる者、
絵画や茶器を愛でる者、あるいは浄瑠璃語りにうつつを抜
かす者などもおります。

さて、かく言う私は、儒家の始祖である孔子の教え
『君子怪力乱神を語らず』という故事なんぞはどこ吹く風
とばかりに、幼き頃より今にいたるまで、怪しき話や恐ろ
しき話、不思議な話などを見聞きすることが大好きで、そ
のような話や噂があれば直ぐさま駆けつけ話を聞き、委細
漏らさず書き記したものがいつの間にもやら増えてきまし
た。ならばと、それらを同好の士にも伝えんがため、この
たび書物にしたためました。

話を集めた場所は、すべて私の住みたる堺の町なので、
その地名にかけて沙界とし、題名を【沙界怪談実記】とし
ました。沙界の名に負けぬほど、摩訶不思議な話をたくさ
ん取り揃えております。

まずは一読一笑一驚と、楽しんでいただければ幸いです。

安らかに永き七つの年の春(安永7年春・1778年)

泉州沙界の住人・鉄砲堂がこれを記す。